

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	金岡高等学校
取り組む課題	B キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現）
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望進路実現率の向上 ・ 難関私立大学進学者数の増加 ・ 学校教育自己診断における該当項目の肯定率の向上
計画名	大改造！「学びのスタイル変容」プロジェクト ～新視聴覚教室でプレゼン能力を磨いて掴む輝く将来～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の中期的目標	<p>1 「ワンランク上の進路実現」に向けた学校全体が進路指導を意識するシステムの構築</p> <p>①進路指導を「キャリアクリエイト」（生徒一人ひとりの将来を創造する）と位置づける。</p> <p>②旧進路指導部を「キャリアサポート部」として再編。進学・就職指導係と探究係が多方面から支え、生徒の個性を最大に伸ばせる指導体制を構築する。</p> <p>③定期考査実施内容の改善や外部教育機関による診断テストを活用するとともに、生徒が主体的に自分自身の進路開拓をさせる指導を実践する。</p>				
事業目標	<p>1 新しい時代の学びを実現する学校施設として「学びのスタイルの変容」へ対応させるモデル授業を展開する学習空間において生徒の探究的な学びを育成する。</p> <p>2 新しい時代の学びを実現する空間で生徒のプレゼン能力を更に高めることによって、希望するワンランク上の進路実現につなげる。*総合型大学受験へダイレクトに対応させ進路実績の拡充を図る。</p> <p>3 新しい時代の授業展開を全教科・科目で開発し、普通科高校の魅力づくりのパイオニアとして研究発表を継続して行い府立高校の教育改革をリードする教職員を育成する。</p>				
整備する 設備・物 品	<p>探究用のプレゼンテーション機能強化のための視聴覚室改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の座席を撤去。プレゼン時に議論を行っていくため、座談できるようフロアの改修を実施。 				
取組みの概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">前年度</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に授業力向上 PT 主催で「育てたい生徒像」を話し合い、「主体的に学びを深める生徒」「積極的に発表ができる生徒」を仮目標として立てることができた。 ・ 希望者による他校訪問を実施し、本校生徒に必要な「授業改善」「施設整備」について意見交換ができた。 ・ 校長による「京都市立開建高校」「大阪市立中之島小中学校」の視察。校内で情報共有・意見収集をした。 ・ 令和7年度より全教職員で総合的な探究の時間を受け持つ組織作りに改編した。 ・ 教育センターが実施する「パッケージ研修」に申し込み、授業力向上のための「学校ルーブリック評価」を併せて設計した。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">初年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規 PT を立ち上げ、改修工事期間中は唯一のプレゼン空間である学校図書館において、「学びのスタイルの変容」対応するモデル授業案を全教科から提案させ、模擬授業形式で </td> </tr> </table>	前年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に授業力向上 PT 主催で「育てたい生徒像」を話し合い、「主体的に学びを深める生徒」「積極的に発表ができる生徒」を仮目標として立てることができた。 ・ 希望者による他校訪問を実施し、本校生徒に必要な「授業改善」「施設整備」について意見交換ができた。 ・ 校長による「京都市立開建高校」「大阪市立中之島小中学校」の視察。校内で情報共有・意見収集をした。 ・ 令和7年度より全教職員で総合的な探究の時間を受け持つ組織作りに改編した。 ・ 教育センターが実施する「パッケージ研修」に申し込み、授業力向上のための「学校ルーブリック評価」を併せて設計した。 	初年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規 PT を立ち上げ、改修工事期間中は唯一のプレゼン空間である学校図書館において、「学びのスタイルの変容」対応するモデル授業案を全教科から提案させ、模擬授業形式で
前年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に授業力向上 PT 主催で「育てたい生徒像」を話し合い、「主体的に学びを深める生徒」「積極的に発表ができる生徒」を仮目標として立てることができた。 ・ 希望者による他校訪問を実施し、本校生徒に必要な「授業改善」「施設整備」について意見交換ができた。 ・ 校長による「京都市立開建高校」「大阪市立中之島小中学校」の視察。校内で情報共有・意見収集をした。 ・ 令和7年度より全教職員で総合的な探究の時間を受け持つ組織作りに改編した。 ・ 教育センターが実施する「パッケージ研修」に申し込み、授業力向上のための「学校ルーブリック評価」を併せて設計した。 				
初年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規 PT を立ち上げ、改修工事期間中は唯一のプレゼン空間である学校図書館において、「学びのスタイルの変容」対応するモデル授業案を全教科から提案させ、模擬授業形式で 				

	度	<p>研究協議を重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間においても「新しいスタイルの学習空間」活用を考察し、モデルとなる探究活動の開発を進める。 ・公立・私立問わず、施設見学を数グループに分けて見学させ、教職員によるプレゼンバトルを展開。生徒を指導する教職員のプレゼンスキルの向上にもつなげる。 ・年末にかけて全教科からモデル授業案を実践発表し、次年度への課題検証及び改善点に関する研究協議を外部関係指導者を招聘して実施する。
	2 年 め	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間において、大学や地域企業と連携し生徒の活動や発表方法を深化させる。 * 生徒による成果報告会の実施。(10月) ・1人1台端末を活用して生徒が主体的に学べる深い学びを全教科で授業展開する。 ・公開授業週間で授業交流を促進させ、教員の授業力向上を高めあう文化を校内に定着させる。 ・教職員の授業力向上のためのワークショップを開催し、スキルを向上させる。(10月) ・本校の取組みと成果を府立学校に向けて報告会等で発信する。
	3 年 め	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間において、大学や地域企業と連携し生徒の活動や発表方法を深化させる。 * 生徒による成果報告会の実施。(10月) ・学校全体の取組みとして、生徒が主体的に学べる深い学びの授業の実践事例集を作成する。(3月) ・前年度の公開授業週間での授業交流を受け、教員の授業力向上を高めあうシステムを確立させる。 ・本校の事例に対する視察・見学の受け入れや研修を年間2回以上行う。
	取組みの 主担・実 施者	<p>主担：校長・教頭・首席を中心に「授業力向上PT」「探究・行事計画検討委員会」を関連付けながら進める。</p> <p>実施者：全教員</p>
成果の検証方法と評価指標	初 年 度	<p>①進路実績の内、難関私立大学進学率を前年度比+15%以上にする。(R6：関西大5名)</p> <p>②学校教育自己診断(生徒)における「自分の意見を発表する機会がある」の肯定率を80%以上にする。(R6：72.9%)</p> <p>③学校教育自己診断(教員)における「授業改善を目的とした教員間の検討する機会を持っている」の肯定率を70%以上にする。(R6：68.1%)</p>
	2 年 め	<p>①進路実績の内、難関私立大学進学率を前年度比+25%以上にする。</p> <p>②学校教育自己診断(生徒)における「自分の意見を発表する機会がある」の肯定率80%以上を維持する。</p> <p>③学校教育自己診断(教員)における「授業改善を目的とした教員間の検討する機会を持っている」の肯定率70%以上を維持する。</p>
	3 年 め	<p>①進路実績の内、難関私立大学進学率を前年度比+30%以上にする。</p> <p>②学校教育自己診断(生徒)における「自分の意見を発表する機会がある」の肯定率80%以上を維持する。</p> <p>③学校教育自己診断(教員)における「授業改善を目的とした教員間の検討する機会を持っている」の肯定率を70%以上維持する。</p>